



第一学院高校

金沢キャンパス編①

岩井正和「祖父と新聞」

祖父は新聞が大好きで、仕事を定年退職してからは毎日二時間くらいかけて新聞をゆっくり読んで

り返していたのだが、ある時家族の意向で自宅に帰ってきた。「最後は病院でなく自宅で死なせてやりたい」という家族の意向だった。祖父は自宅に帰ってきて最初に、「新聞を読みたい」と祖母に言った。

私は「おじいちゃんは本当に新聞が好きだね」と言つと、「若い頃から毎朝、新聞を読んでいるから、好きでも嫌いでもない。ただ新聞を読まない」と、何だか調子が

読む姿息子にかさねる

いた。そんな祖父を見て、祖母は「どこにそんな読むところあるのか」と不思議に思っていたようだ。

そんな祖父は病気で入退院を繰り返

出ないだけ」と言っていた。その祖父も、今はいない。二十三年前に亡くなった。今、私は五十一歳。十八歳になる息子がいる。

息子が新聞を読んでいる姿を見ると、何だか祖父の姿を思い出して感慨深い。

息子には、祖父と同じで新聞をよく読む若者でいてほしい。今は互いに会話もしない親子だが、いつか新聞の記事やニュースをもとに、ゆっくり話ができればいいなと希望している。

(いわい・まよるかず)

